



代表機関	慶應義塾大学	プロジェクトリーダー	田中 浩也 慶應義塾大学 環境情報学部 教授
幹事自治体	鎌倉市	幹事機関	株式会社カヤック
参画機関	鎌倉女子大学、関西学院大学、高知大学、国際大学、信州大学、東京工科大学、法政大学、北海道大学、武蔵野大学、ものづくり大学、横浜国立大学、国立環境研究所 江ノ島電鉄株式会社、株式会社オカムラ、株式会社ORPHE、花王株式会社、特別認可法人鎌倉商工会議所、キョーラク株式会社、一般社団法人国際STEM学習協会、湘南モノレール株式会社、SOLIZE株式会社、大成建設株式会社、大成ロテック株式会社、株式会社高山商会、デジタルファッション株式会社、東京エコリサイクル株式会社、TOPPAN株式会社、日本ポリエチレン株式会社、株式会社放電精密加工研究所、三菱ケミカル株式会社、ヤマハ発動機株式会社、株式会社横浜銀行、レコテック株式会社、YKK AP株式会社、相模原市、ポーラ化成工業株式会社、三井住友信託銀行株式会社、三菱電機株式会社、特定非営利活動法人鎌倉広町の森市民の会、株式会社ADEKA、株式会社イトーキ		

プロジェクトの概要

SDGs未来都市である鎌倉市は「ゼロウェイストかまくら」を目指し、人口20万人規模の「中都市」に適した、ごみ減量や資源化の試みを推進してきた。本プロジェクトでは、資源化のさらに先に、地域で回収した各種資源に高価値を付与し、新たな活用先を連続的に創出する「共生アップサイクル」を推進する。さらに、参加する市民が相互にリスペクトで繋がりあうことで、「消費者」ではなく「循環者」としての新たな充実感やウェルビーイングを獲得できる社会経済モデルを確立する。鎌倉市で開発・運用・洗練した科学技術基盤と評価指標、社会制度を、最終的には日本国内・世界各地へ展開し、国際的な資源循環都市ネットワークを先導する。

ビジョン：「循環者」になるまちー社会でまわす、地球にかえす、未来へのこすー

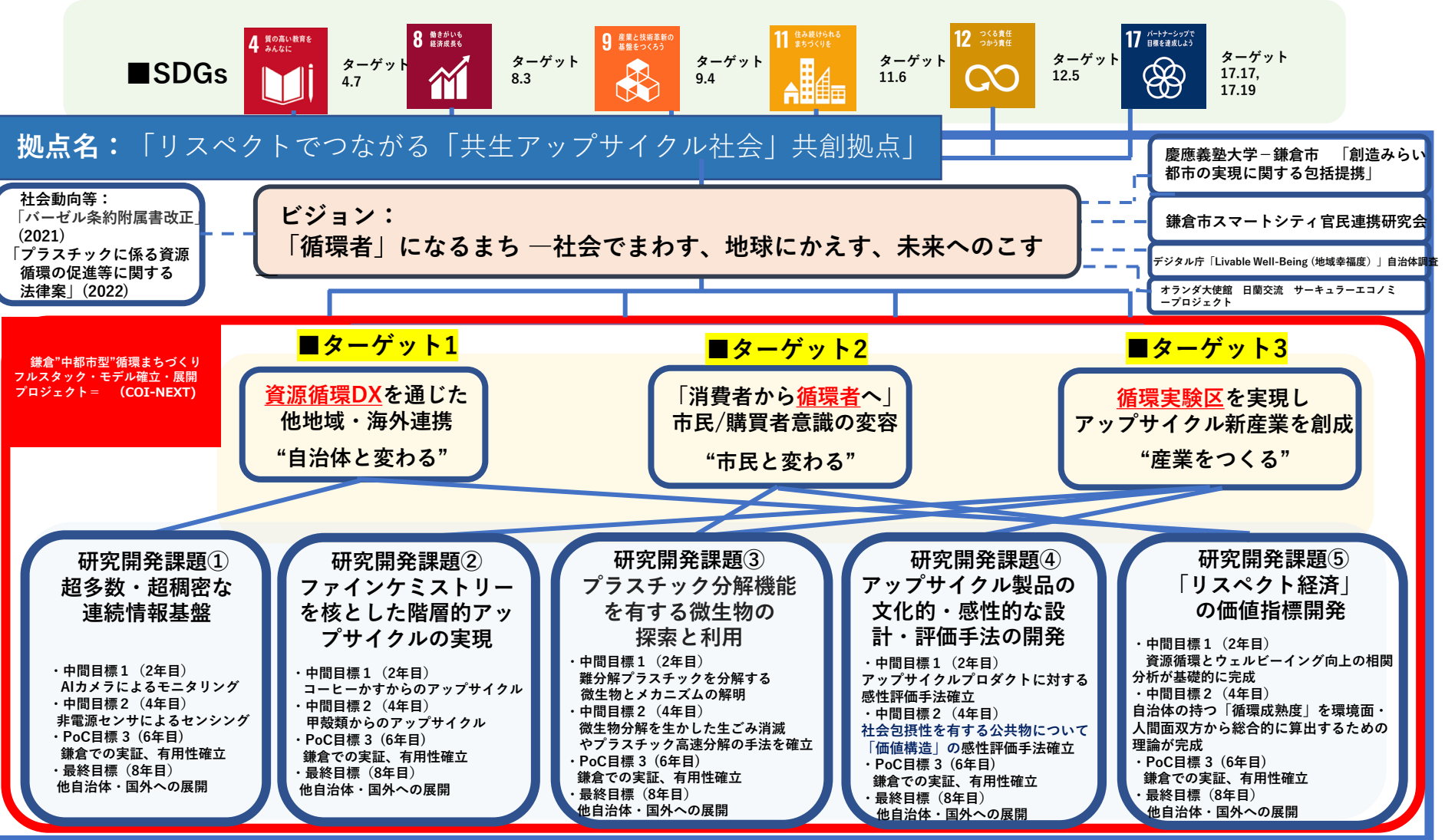
ターゲット1【行政】
資源循環DXを通じた
他地域・海外連携

ターゲット2【市民】
「消費者から循環者へ」
市民/購買者意識の変容

ターゲット3【産業】
アップサイクル新産業創成
循環実験区を実現



総合知「循環創造学」を創生し、研究から産業化までをつなげた拠点を形成



拠点名称：リスペクトでつながる「共生アップサイクル社会」共創拠点

代表機関：慶應義塾大学

プロジェクトリーダー：田中浩也(環境情報学部教授)

研究開発課題1「超多数・超稠密な連続情報基盤」の目標		
中間目標1	2024年度	AIカメラによるモニタリング技術の基礎的完成
中間目標2	2026年度	非電源センサによるセンシング技術の基礎的完成
PoC目標3	2028年度	鎌倉での実証を複数回繰り返したうえで、その有用性を確立（PoC）
最終目標4	2030年度	技術をパッケージ化したうえで、他自治体・国外への展開（事業化判断）
研究開発課題2「ファインケミストリーを核とした階層的アップサイクルの実現」の目標		
中間目標5	2024年度	コーヒーかすからのアップサイクル技術の基礎的完成
中間目標6	2026年度	甲殻類殻からのアップサイクル技術の基礎的完成
PoC目標7	2028年度	鎌倉での実証を複数回繰り返したうえで、その有用性を確立（PoC）
最終目標8	2030年度	技術をパッケージ化したうえで、他自治体・国外への展開（事業化判断）
研究開発課題3「プラスチック分解機能を有する微生物の探索と利用」の目標		
中間目標9	2024年度	難分解プラスチックを分解する微生物とメカニズムの基礎的解明
中間目標10	2026年度	微生物分解を生かした生ごみ消滅やプラスチック高速分解の手法の基礎を確立
PoC目標11	2028年度	鎌倉での実証を複数回繰り返したうえで、その有用性を確立（PoC）
最終目標12	2030年度	技術をパッケージ化したうえで、他自治体・国外への展開（事業化判断）
研究開発課題4「アップサイクル製品の文化的・感性的な設計・評価手法の開発」の目標		
中間目標13	2024年度	アップサイクルプロダクトに対する感性評価手法を基礎的に確立
中間目標14	2026年度	社会包摂性を有する公共物について「価値構造」の感性評価手法を基礎的に確立
PoC目標15	2028年度	鎌倉での実証を複数回繰り返したうえで、その有用性を確立（PoC）
最終目標16	2030年度	技術をパッケージ化したうえで、他自治体・国外への展開（事業化判断）
研究開発課題5「「リスペクト経済」の価値指標開発」の目標		
中間目標17	2024年度	資源循環とウェルビーイング向上の相関分析が基礎的に完成
中間目標18	2026年度	自治体の持つ「循環成熟度」を環境面・人間面双方から総合的に算出するための理論が基礎的に完成
PoC目標19	2028年度	鎌倉での実証を複数回繰り返したうえで、その有用性を確立（PoC）
最終目標20	2030年度	技術をパッケージ化したうえで、他自治体・国外への展開（事業化判断）

拠点名称：リスペクトでつながる「共生アップサイクル社会」共創拠点

代表機関：慶應義塾大学

プロジェクトリーダー：田中浩也(環境情報学部教授)

